



アタッチメント 1995年



アタッチメント 1995年

□ 長重之展 □

2020.1.22 (水) ~ 2.16 (日)

■協力: **rio** art association

■同時開催■

1/25(土)~2/9(日)、足利市立美術館 特別展示室において、足利市立美術館の企画による長重之展も開催されます。こちらもぜひご覧ください。



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目 2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : <http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/>



看護人 1965年



ピックポケット 2019 2019年



ピックポケット
(キャピタリズム)
2012年



視床 (赤) 1986年



破局 1959年



ポケット (13) 1965年



反統合野 2012年

長重之 (1935-2019) は約 70 年間という長きにわたり足利を拠点に活動した美術家です。実家は本庄高富藩の分領地代官を務めた旧家でした。10 歳で父を亡くし、大地主である長家の家督を相続しました。その後農地改革など土地に関わる問題が、少年時代の長に重くのしかかりました。後の「領域」に対する意識はこの体験と無関係ではないでしょう。

栃木県立足利高校在学中から足利の「VAN 洋画グループ」に参加、オノサトシノブともこの頃出会います。卒業後ガス会社にボイラーマンとして勤務しつつ「火夫シリーズ」を描きました。これらの作品は日本アンデパンダン展 (1963 年)、読売アンデパンダン展 (1964 年) に出品され、中央へのデビューを果たしました。

ガス会社に 8 年間務めたのち、精神科病院に作業療法士のアシスタントとして働きました。この時の体験は長に大きな影響を与えたと思われます。正常と異常の境とは何か、それは誰がどのようにして決めたのか等、様々な疑問が生じました。

その後、長の関心は「領域」と「境界」に収斂されていきました。「領域」は制度や社会によって定められるが、「境界」は個の意識によるものであり、制度等には束縛されない主体性を帯びています。「領域」と「境界」は本来相互に支えあっていたはずなのに、両者は「遠く引き裂かれ、色を失ってしまった」と長は考え、「境界」のもつ「新たな地平を開く」力を希求します。そして「領域」と「境界」の関係を様々な形で示しました。端的に言えば「視床」は領域と境界のせめぎあい、「ポケット」は境界的なものを内在化した領域、パフォーマンスは領域と境界の統合の試みと考えられます。

本展は昨年 7 月に亡くなった長の没後初めての展覧です。この機会にぜひご覧ください。

江尻 潔 (足利市立美術館次長)

- 11:00~19:00 (最終日は 17:00 まで)
- 月・火曜日休廊 (月・火曜日が祭日の場合は営業、翌日休)
- 軽食とソフトドリンクもお楽しみいただけます。
- アクセス ■
 - ・東武伊勢崎線足利市駅徒歩 12 分・JR 両毛線足利駅徒歩 8 分
 - ・北関東自動車道足利 IC より 15 分 (駐車場 3 台あり)



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通 2 丁目 2658
Tel : 0284-82-9172
E-Mail : info@artspace-and-cafe.com
URL : http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/

